

ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」 普及の最前線

文・写真 井上 栄 (青年海外協力協会)

第9回

ソロモンゲームとともに



いづえ・さかえ／1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始め大学までプレー。卒業後は愛知県立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月～08年3月)、ソロモン諸島(08年8～09年12月及び10年4月～11年3月)に赴任。帰国後は、星種名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して時々根青年海外協力隊訓練所に勤務。

ソロモン諸島 Solomon Islands
 首都：ホニアラ (ガダルカナル島)
 人口：約53万人
 言語：英語、ピシ語
 面積：2万8,900km² (岩手県の約2倍)
 大小約100の島々からなる英連邦の国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。



エキシビジョンゲームの試合前整列。ユニフォームもそろえて準備万端
 ソロモンゲームの会場にはみんなトラックの荷台に乗って

されるのはその内容よりも、「日当が払われるのか」「軽食や昼食がついているのか」。そういうわけでソフトボールの試合ができる決まったものの、試合をしてくれる選手がいるのか不安がありました。

他の種目では、ソロモンゲームに参加する選手たちに日当を払うという話も聞きました。せめて選手たちの自己負担がないように一人1000ソロモンドルの交通費だけは連盟で用意しようとした資金集めを始めました。今回のソロモンゲームは、私の活動拠点である首都ホニアラではなく、マライタラの州都・アウキでの開催。速



開会式の入場行進後、記念に撮った1枚。「EXHIBITION SPORTS」としてソフトボールチームは参加



日本からの寄付でもらった体操服をアレンジした記念Tシャツ(写真左)。会場にはストラックアウト装置を常設してPRに役立てた(写真下)



Information 短期間での活動もあり

原則2年間の任期のJICAボランティアだが、活動期間が1カ月～1年未満の短期ボランティア制度もある。短期ボランティアは、年4回(5月、8月、11月、2月)募集があり、応募案件はJICAボランティアなどの国際協力経験者だけが応募できるものと、JICAボランティア未経験者でも応募できるものの2種類がある。選考は、応募書類をもとにした1次選考と面接や技術審査を行う2次選考がある。2次選考に合格すると短期ボランティアとなる。赴任前には、最大5日間程度の研修を受ける。派遣中の待遇は長期ボランティアと異なるものの、安心して活動ができる支援体制がある。
 HP/ <http://www.jica.go.jp/volunteer>

「したい」という選手が多数いました。多くの選手が大会でプレーすることに名乗りを上げてくれたのですが、資金の面から試合をするギリギリの18名と連盟職員2名分の計20名に絞らざるを得ませんでした。日曜日のリーグ戦に参加している選手のレベルはさまざまなので、「見せる」試合を行うためには「上手な選手たちに参加してもらわなければならない」。

ソフトボール普及へ同じ気持ちを持つ選手たちの理解と温かい協力を得ることができ、無事にソロモンゲームでエキシビジョンゲームができることになりました。

研修などで日当や軽食が重要視されるようにイベント参加時に配られるTシャツもソロモン人にとっては大切なものです。参加してくれる選手たちが少しでも他の種目の選手たちと同じように喜びを感じてほしいと思っていました。運よく同時期に赴任

した隊員がよく知るスポーツ用品店から「デザイン変更のため不要になった体操服をソロモンで何かに生かしてほしい」と寄付をしてくれていました。

ソロモンには「ラバラバ」と呼ばれる布があり、染色したり型をとって柄を浮かせたり多用途なデザインのもの売られています。ラバラバの柄の型紙には、レントゲンが使われています。私も做って病院でレントゲンをもらい、型紙を作り、ラバラバ用の染色液で体操服にプリントを施しました。今回もソロモンの技術を駆使し、ソロモンの人に喜んでもらえるものが完成しました。

多くの準備をして参加したソロモンゲームは、天候に恵まれず、2試合予定していたエキシビジョンゲームは1試合しかできませんでした。しかし、当初予定していた会場が水没したことから、メイン会場のグラウンドでの試合になりました。自立できるようにしたストラックアウトは、試合後の会場で注目を集め、2つの州からは自分の州でも普及してほしいという言葉をいただきました。

ソフトボールのPR目的で参加したソロモンゲームでしたが、それ以上に宿泊先の小学校の教室や工場の作業場で約2週間選手たちと寝食を共にし、一緒に活動したことはかけがえのない時間。その後の活動でも未だに多くの協力してもらえました。